

四国経済産業局長賞

『予防効果の高い注射法多価魚病ワクチン』の開発



財団法人阪大微生物病研究会 観音寺研究所

所在地：香川県観音寺市八幡町

代表者：所長 石橋 正英

設立：昭和9年（1934年）

基本財産：5億5万円

功績

イリドウイルス感染症に対する予防ワクチン及びイリドウイルス感染症と連鎖球菌症双方に対する混合ワクチンを開発し、その投与方法として確実に防御効果を賦与する注射法ワクチンを日本で初めて開発した。さらには、イリドウイルス感染症、連鎖球菌及びピブリオ病に対する3種混合ワクチンも開発した。

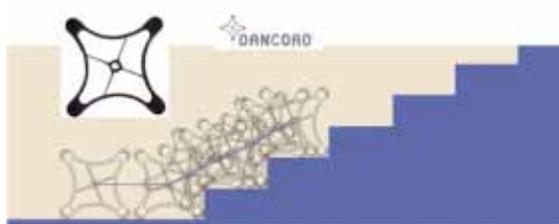


注射法ワクチンの普及により、安心・安全な養殖魚の供給、薬剤の使用低減による環境汚染の防止に寄与した。ひいては計画的な養殖魚の生産が可能となり、養殖業の経営安定化に大きく貢献した。

URL：<http://www.biken.or.jp/>

独立行政法人産業技術総合研究所 四国センター所長賞

段差、階段を昇降できる車輪『ダンコロ』とその製品の開発



株式会社サワダ

所在地：香川県高松市高松町

代表者：代表取締役社長 澤田 光生

設立：昭和35年（1960年）

資本金：1,000万円

功績

平地はもちろんのこと、段差や階段でも衝撃や振動がなくスムーズに昇降可能な車輪『ダンコロ』とその車輪を使って用途に合った多分野にわたる多種多様の製品開発を行った。軽量タイプの手動型から重量タイプ(約200kg)の動力型など重量に合わせた商品化を行った。ダンコロ車輪は各ローラーを内ぞりカーブ面でつなげている



ユニークな形状で、デザイン性も高く、個性的である。従来の丸い車輪と比較すると、内ぞりカーブ面を階段の角に滑らせて昇降するので、車軸の上下動が少なく段差をスムーズに昇降可能となる。

URL：<http://www.dancoro.com/>

財団法人四国産業・技術振興センター 理事長賞

トレーニングやリハビリの継続性を維持させる運動とゲームを融合させた『JoyfulRider (ジョイフルライダー)』の開発



株式会社プレックス

所在地：香川県高松市鶴市町

代表者：代表取締役 河野 猛

設立：平成13年(2001年)

資本金：1,000万円

功績

現在のフィットネスの主流である筋力系、持久力系のいずれにも属さない、視覚情報を末端神経に伝達する「筋神経系トレーニング」という新しい分野の運動機器を実現した。バランスボード(不安定板)にコントローラー機能を搭載し、ゲーム感覚で楽しく運動を継続することができ、視覚情報に対する俊敏性・巧緻性や、ボード操作による平衡性・柔軟性のトレーニング効果を発揮する。操作ボードの最大傾斜角及び傾動反力が調整可能で、利用者の身体機能の程度に応じた操作性を実現した。高齢者の転倒予防、手術後のリハビリ、母趾の足圧向上による外反母趾防止など様々な使用効果が認められている。



URL : <http://www.purex.co.jp/>

『でんぐり紙を利用した梱包材（充填材）』の開発



山中商事株式会社

所在地：愛媛県四国中央市寒川町

代表者：代表取締役 山中 健太郎

設立：昭和46年（1971年）

資本金：1,000万円

功績

従来の梱包部材の樹脂系緩衝材は、別途用意する必要がありかさばる上に、使い終わった後も分別する手間を要する。本製品ではすべて紙で形成されており使用時にはワンタッチで開いて物を収納することができ、使用後はそのまま折畳んでリサイクルに回すことができる。伝統的な紙細工のでんぐり紙は飾りとしての用途しかなかったが、ビジュアル的な使い方に機能性を持たせた画期的なものとなっている。でんぐり紙特有のハニカム模様で物を入れたときの見栄えがよく、プレゼントなどの梱包用としても評価されている。



『S q C ピア工法を応用した鋼管杭橋（永久橋）』と『間伐材と鋼管杭による土留工法及び岩盤削孔機』の開発



株式会社高知丸高

所在地：高知県高知市祖薊野南町

代表者：代表取締役社長 高野 広茂

設立：昭和42年（1967年）

資本金：2,000万円

功績

従来、橋梁工事は、仮道、仮栈橋等の仮設工事を先行して行い、それを利用して本工事を進め、工事が終了した後、仮設材を撤去していた。この新工法は、平成16年度四国経済産業局長賞を受賞した仮栈橋工法のS q C ピア工法を応用し、仮栈橋自体を鋼管杭橋（永久橋）として、従来工法とは逆の手順で、上部工、下部工と手延式に施工する工法である。仮設工事を必要としないため工期短縮、鋼管杭を手延式に施工するため地表面への影響は最低限などコスト低減につながり環境に優しい工法である。



地すべり土留杭工法は、建て込んだ抑止杭の上にレールのついたキャップを設置し、このレールの上を岩盤削孔機が自走しながら順次削孔して鋼管杭を建て込んでいく手延工法であり、ケーブルクレーン2.9t吊、搬送組立作業幅2.5mあれば施工可能である。横矢板には高知県産の間伐材を使用し、地元木材産業の振興を図っている。

URL：<http://www.ko-marutaka.co.jp/>

参考

「S q C ピア工法を応用した鋼管杭橋（永久橋）」第1号橋が平成19年9月10日に施工開始となっています。（平成19年度中に完成予定）

（写真は完成予想図）



参考 URL : <http://marutaka.jugem.jp/?day=20070910>